

製品名: GRIA2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81879**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	99kDa

抗原情報

遺伝子名	GRIA2
別名	GLUR2; GLURB; GluA2; HBGR2; GluR-K2
遺伝子 ID	2891.0
SwissProt ID	P42262
免疫原	大腸菌で発現したヒト GRIA2 (AA: 35-175) の精製された組み換え断片。

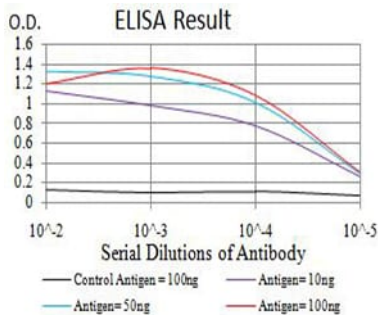
背景

グルタミン酸受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体であり、様々な正常な神経生理学的プロセスにおいて活性化されます。この遺伝子産物は、 α -アミノ-3-ヒドロキシ-5-メチル-4-イソキサゾールプロピオネート (AMPA) に感受性のある

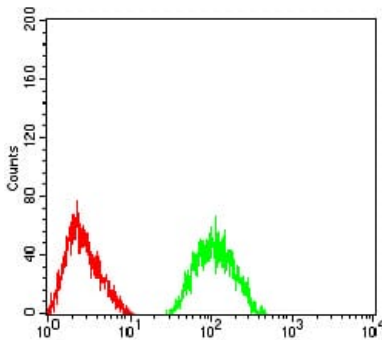
グルタミン酸受容体ファミリーに属し、リガンド活性化カチオンチャンネルとして機能します。これらのチャンネルは、GRIA1~4という4つの関連サブユニットから構成されています。この遺伝子によってコードされるサブユニット (GRIA2) は、第2膜貫通ドメイン内でRNA編集 (CAG→CGG; Q→R) を受け、その結果、チャンネルはCa(2+)を透過できなくなっていると考えられています。ヒトおよび動物を用いた研究では、pre-mRNA編集は脳機能に不可欠であり、GRIA2のQ/R部位におけるRNA編集の欠陥は、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の病因と関連している可能性があることが示唆されています。この遺伝子では、選択的スプライシングにより、異なるアイソフォーム (シグナル伝達特性が異なるフリップ アイソフォームとフロップ アイソフォームを含む) をコードする転写バリエーションが生成されることが知られています。

研究分野

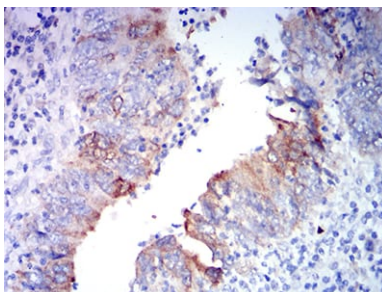
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



GRIA2 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した SK-N-SH 細胞のフローサイトメトリー分析。



GRIA2 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。